

関西学院大学 スカイセミナー  
**SKY SEMINAR**



Vol.34 途上国の開発支援と日本の大学

これからの留学は  
途上国へ！

大学が世界貢献へ  
踏み出す

村田 俊一

関西学院大学 総合政策学部 教授



（CUSO（キートン））という組織を「存知」だろうか。カナダ国内の大学を中心に生まれた組織で、政府からのODAや独自に集めた寄付金を資金に、学生らをボランティアとして開発途上国に派遣する。いわば、大学版の青年海外協力隊だ。いま私は、日本版CUSOの立ち上げを夢見ている。

国連の途上国開発支援機関であるUNDP（国連開発計画）の職員として、私はウガンダ、中国、フィリピンなどの開発途上国で20年以上勤務した。そのなかで痛感させられたのは、先進国がいかに途上国に依存しているか」ということ。途上国が豊富に有している物的・人的資源なしでは、先進国もビジネスや政策を展開できない。特に日本は、食糧自給率や工業資源の輸入割合からも、その依存の大きさは瞭然である。

ところが日本の教育機関が「国際人の育成」を目指すとき、いまだに欧米の先進諸国を志向していることがほとんどである。私はむしろ途上国へのまなざしが必要だと思う。世界人口の8割が暮らす途上国の現実を知らずして、国際人とはとても言えない。

と、UNDPの国連事務総長は近年の急速な情報技術（IT）の発展により広がっている先進国と途上国とのデジタルギャップを解消するために、NGO、企業、学界など専門知識を有する人材を有するさまざまな組織との

ネットワークをつくり、途上国にボランティアを継続的に派遣するといった枠組みを提唱した。この取り組みの調整機関であるUNV（国連ボランティア計画）はアメリカスペインの大学と提携を結び、次に地域的な広がりを求めて、3校目としてアジアの関西学院大学と提携した。

これにより、関西学院大学は2004年度からスリランカなどの途上国に学生たちを順次送り出している。彼らは旅行者や一方的に学ぶ学生ではなく、現地の人々の「同僚」として互いに教え学びながら、約半年にわたり業務を遂行する。そのなかで世界の発展に直接貢献するだけでなく、彼ら自身が世界のどこでも周囲と協力し、かつ自分の能力を発揮する力を身につけることができる。

日本の大学は、世界に貢献しようという知識や蓄積も、そしてその意欲を持つ人材も豊富に抱えているのに、実際の教育的・学問的取り組みはまだ小さい。今回のUNVとの提携が、日本の大学が世界の平和・発展のために直接的に貢献できるという事例になり、欧米偏重の傾向を転換するきっかけになることを願っている。そして将来的に「日本版CUSO」を実現する。

むらたしゅんいち 専攻は国際関係論、国際機構論。関西学院大学法学部卒業。アメリカ・シラキューズ大学ハートランド大学にて行政大学院修了。UNDP国連開発計画（職員として）主に紛争解決や経済発展の支援のため、イタリヤ、モンゴルなど世界数カ国で勤務し、イタリアでは常駐代表を務める。2002年より現職。



西宮上ヶ原キャンパス  
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号  
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部/高等部/中学部

神戸三田キャンパス（KSC）  
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地  
総合政策学部 理工学部

「Sky Seminar」のバックナンバーは、<http://www.kwansei.ac.jp/information/sky.html> で御覧になれます。お問い合わせ…TEL:0798-54-6017(広報室)

経営戦略研究科( ビジネススクール、アカウンティングスクール ) 説明会を開催

2005年4月開設予定の専門職大学院「経営戦略研究科」( ビジネススクール、アカウンティングスクール ) の説明会を10月23日、大阪梅田キャンパス( 大阪市北区茶屋町 ) で開きます。お問い合わせは同研究科開設準備室( TEL.0798-54-6572 ) まで。